

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2891500163		
法人名	社会福祉法人 弘道福祉会		
事業所名	洲本中川原グループホームラガール		
所在地	兵庫県洲本市中川原町安坂988番地		
自己評価作成日	令和6年9月1日	評価結果市町村受理日	令和6年12月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和6年10月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の残存機能を把握し、自己にて出来ることは時間がかかっても頂いている。お手伝いの必要時は、その方の尊厳を大切にケアを行っている。新型コロナが5類に移行したことで、外出ドライブや地域の集いに参加をして、気分転換や楽しみを持っていただくようにしている。体調や食事の摂取など変化時は、主治医や家族に連絡し、指示を頂き対応している。家族との関わりは、密に取るようにし、信頼関係を築くようにしている。独居や老々介護が増えている中、家族の受診対応が困難となってきており、職員が受診対応を行い、家族に結果を報告している。車椅子の入居者も増え、家族より早期に受診対応が出来安心であるとの言葉を頂いている。接遇や高齢者虐待、ハラスメントなどの研修も定期的に行い職員の周知を図っている。季節の行事を開催し、季節感を味わって頂いている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広く医療福祉事業を展開する法人が運営する総合福祉施設の中にあるグループホームである。施設内・事業所内で各種会議・委員会・研修・訓練等の体制が整備され、実施記録も分かりやすく整理されている。PDCAサイクルによるケアマネジメントが定着し、利用者個々の現状に即した個別支援に取り組んでいる。日々のレクリエーション、季節に因んだ制作や行事、手作りパンの日や手作りおやつの日、家事への参加等、日常生活の中で楽しみや季節感が感じられるように努めている。地域の「百歳体操・お茶会」や「ひまわり会」への参加、毎月の地域への外出行事(ドライブ・買い物・夕食等)、ボランティアの来訪、施設の夏祭り等を通して、利用者が地域交流できる機会を再開している

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎週の朝礼の中で、理念や基本方針を復唱している。玄関や地域交流室、スタッフルームに理念を掲示し、職員の共有を図っている。理念・基本方針をもとに、年間の目標を立て、振り返りを行っている。	法人の理念・基本方針を明示し、理念を具体化した基本方針に「地域に貢献できる施設」として地域密着型サービスの意義を表している。施設玄関・地域交流室・各フロアのスタッフルームに掲示し、施設合同の朝礼で毎週唱和し共有を図っている。入職時研修で周知し、毎年4月の研修に取り入れ理解を深めている。理念・基本方針をもとに、グループホームの年間目標と具体策を作成し、中間期と年度末に職員の意見を集約して振り返りを行い、実践に向け取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の集いの「百歳体操・お茶会」に参加。第三月曜日にある「ひまわり会」に参加し、地域の方々との交流を深めている。地域の草刈りがあり、毎回参加、週に2回移動スーパーがが来訪、地域の方との繋がりを継続。2か月に1回の運営推進会議になかで、ケアセンター便りを配布、事業所の状況を伝え、助言を頂いたり、相談対応もしてる。	運営推進会議での2地域の町内会会長・民生委員との連携、地域の草刈りへの職員参加、移動スーパー(週2回)の利用、地域からの相談対応等を継続している。地域の「百歳体操・お茶会」(週1回)や「ひまわり会」(月1回)への参加、毎月の地域への外出行事(ドライブ・買い物・外食等)、ボランティアの来訪、施設の夏祭り等を通して、利用者が地域交流できる機会を再開している。島祭りには、職員が参加して開催協力を行った。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に1回の運営推進会議になかで、認知症についての質問や意見があり、認知症について話す場となっている。地域の集いに参加時相談対応を行っている。		

洲本中川原グループホームラガール

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営会議を開催。地域の役員や民生委員、地域包括の所長、利用者家族が参加。入居者の情報や行事など、スライドを使用して説明。意見や助言を頂き、サービスに活かすようにしている。	利用者代表・家族代表・地域代表(2地域の各町内会会長・民生委員)・地域包括支援センター職員・知見者を構成委員とし、2ヶ月に1回開催している。会議では、利用者の状況、活動や行事、ヒヤリハット・事故事例等を、資料とパワーポイントを用いてわかりやすく報告し、参加者と意見・情報交換している。議事録は、施設玄関の総合受付に設置し公開している。職員にも回覧し周知・共有を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括の職員の方が、運営推進会議の委員となっており、入居者の情報を伝えている。また職員の方からも、相談を受け、協力出来るようにしている。	運営推進会議に地域包括支援センターから参加があり、定期的な連携がある。随時にも利用者に関する情報交換を行い、協力関係を築いている。困難事例や利用者支援に関する相談・運営上の質問等があれば、市の担当窓口で電話や訪問で問い合わせを行い、適正な運営につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束について」施設内研修を年2回行っている。毎月のグループホーム会議や勉強などで身体拘束について学ぶようにしている。高齢者虐待・拘束廃止委員会がの中で、アンケートを実施。職員が互いに注意し合える取り組みをしている。	「身体拘束適正化の指針」を整備し、身体拘束をしないケアを実践している。施設合同の「高齢者虐待・拘束廃止委員会」を2ヶ月に1回開催し、事業所から委員が参加している。各事業所が委員会の年間目標を設定し、各フロアのスタッフルームに「委員会の年間目標」と「スピーチロックについて」を掲示し、高齢者虐待防止・拘束廃止に取り組んでいる。委員会の議事録を回覧し、職員の周知を図っている。年間研修計画に沿って、施設合同の研修会で「虐待防止・身体拘束廃止」研修を年2回実施している。研修に参加できなかった職員は、資料配布し周知を図っている。エレベーターの使用には操作が必要であるが、外出の希望があれば職員が対応し、閉塞感を感じないように配慮している。	施設合同の「高齢者虐待・拘束廃止委員会」と共に、事業所内でも行動制限につながる事例について振り返るを行う機会を定期的に設けることが望ましい。

洲本中川原グループホームラガール

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての施設内研修を年2回行っている。委員会もあり、不適切ケアについてなど話し合い、職員間で互いに注意し合える環境を作っている。毎年「ストレスチェック」を行ったり、メンタルヘルスの窓口も設け、職員のストレスが、入居者のケアに繋がらないようにしている。	「高齢者虐待防止指針」を整備し、「身体拘束廃止」と同様に、委員会・施設内研修等により、不適切ケアの未然防止に取り組んでいる。不適切ケア防止に関するチェックリストによる自己評価を毎年実施し、今年度も予定している。管理者が相談しやすく協力し合える職場環境づくりに努め、施設長・管理者が定期的・随時に個人面談を行う等、職員のストレスや不安がケアに影響しないように取り組んでいる。法人としても、毎年のストレスチェック、メンタルヘルス相談窓口の設置・環境改善委員会の設置・職員アンケートの実施等、働きやすい環境づくりに取り組んでいる。	施設合同の「高齢者虐待・拘束 廃止委員会」と共に、事業所内でも不適切ケアにつながる事例について振り返りを行う機会を定期的に設けることが望ましい。
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の中に、「成年後見制度」を利用されている方がおり支援を行っている。権利擁護について施設内での勉強会を行い、利用の必要性などについて学んでいる。	「成年後見制度について」の研修についても、毎年施設内研修で研修を実施し、今年度も予定している。成年後見制度を利用している事例があり、後見人への金銭関係書類の提供・定期的な報告等、事業所として制度利用を支援している。制度利用についての相談に施設長が対応した事例があり、今後も、制度利用の必要性や家族等からの相談があれば、施設長が窓口となり関係機関につなぐ体制がある。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学希望時は、対応しグループホームについて説明を行っている。契約時は、契約書や重要事項説明書、料金表、重度化、リスクについて2部準備をして説明をし、同意を得ている。内容変更時は、変更内容について書面を郵送、同意を得ている。	入居相談・入居希望があれば、見学に対応し、パンフレット・料金表等を用いてサービス内容等を説明している。契約時には、契約書・重要事項説明書・指針・同意書等に沿って説明し、文書で同意を得ている。料金、重度化・看取り対応、リスク説明等、特に詳細な説明が必要な項目については、別書面を作成して説明し同意を得ている。契約内容の改定時には、変更内容についての書面を郵送して説明し、文書で同意を得ている。	

洲本中川原グループホームラガール

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の窓口や意見箱を設けていることを契約時に説明をしている。対面面会の再開もあり、電話での連絡時や面会時に日々の様子を伝え、家族の意見を聞かせていただいている。環境安全委員会より入居者アンケートあり、入居者の意見や思いをサービスに反映させている。	家族の面会を再開し、家族の面会・受診同行・電話連絡等の際に近況を報告し、家族の意見・要望を聴き取るようにしてる。「ケアセンター便り」を毎月郵送して利用者の様子や行事・活動等を伝え、玄関ホールに意見箱を設置し、苦情・相談窓口を設置する等、家族が意見・要望を表しやすいように取り組んでいる。把握した意見・要望は、「申し送りチェックシート」で共有し個別に対応している。利用者の意見・要望は日々のコミュニケーションの中で把握するとともに、環境改善委員会が聴き取りで利用者アンケートを行い、サービスに反映できるよう取り組んでいる。運営推進会議に家族の参加があり、職員・外部者に意見等を表せる機会も設けている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のグループホーム会議の中で、職員の意見や提案を出し、入居者の安全や職員の不安などについて共有、改善を図っている。年2回人事考課があり、管理者と職員が面談をし意見を聞くようにしている。又随時代表者との面談を受け付けている。	月に1回、グループホーム会議をフロア合同で行っている。会議では、連絡・報告事項についての共有、利用者・業務についての情報共有や検討、行事・訓練の振り返り等を行っている。会議の前に次第を配布して意見を募り、欠席しても意見を伝えられるよう工夫している。施設の各種委員会に事業所から委員が出席し、職員の意見・提案をサービスや運営に反映できる仕組みがる。グループホーム会議録・委員会議事録は閲覧し、閲覧印で職員の周知を確認している。環境改善委員会が職員アンケートを行い、また、定期的には年2回、随時にも個人面談を行い、個別に意見を聴く機会も設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年2回人事考課を実施してる。各職員が目標を設定、自己評価を行い面談。面談の中で意見や提案を聞き、職員のモチベーションアップにつなげている。		

洲本中川原グループホームラガール

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実務者研修の受講などの情報を掲示、資格取得やスキルアップにつなげている。職員個々の研修計画を立て、施設毎勉強会や法人の勉強会に参加できるようにしている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	淡路ブロック老人福祉事業協会の研修や法人の合同研修に参加し、情報共有を行っている。居宅支援事業所との共有を図るとともに老人保健施設からの情報提供にも応じている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の困っていること、不安なこと等入居前のアセスメントの中で聞き取り、また提案し、入居者に合ったケアに繋げていけるようにする。趣味や生活歴など伺い、その方に合ったコミュニケーションを取り、安心や信頼に繋げる。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が今一番困っていること、不安であることを傾聴し、利用者に向けたケアを提案。いつでも相談できることを伝え、安心して支援を受けていただけるようにしている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今本人が出来ること・本人、、家族が望まれていることは何かということを見極める為に情報を収集し、本人・家族に合ったケアの取入れ、また他のサービスの情報を伝えている。		

洲本中川原グループホームラガール

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の「出来ること」に視点を置き、出来ることを職員と共に行って頂いている。洗濯物をたたむ等の軽作業での役割を持ち、出来ることの維持に繋げている。また職員との共存関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の日常の様子は、ケアセンター便りや対面面会時や運営推進会議の中で報告している。体調不良時や事故時、受診結果等は電話で詳細を報告している。重度化については、家族と主治医を交え今後についての話し合いの場を持ってい。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	体面面会が再開となり、家族や親しい方と接することが出来ている。イオンやしまむらに外出し、食事や衣類の買い物をしている。よく買い物に行ったとお聞きする。。	家族・友人・知人との玄関ホールや相談室での面会を再開し、馴染みの人との関係継続を支援している。「百歳体操・お茶会」「ひまわり会」への参加や、複合施設内の他事業所の利用者との交流も、馴染みの人との関係継続の機会となっている。事業所として、受診・買い物・ドライブ外出等の際に、馴染みの場所との関係継続を支援している。家族との外出・外泊を再開し、馴染みの人や場所との関係継続の機会になるよう支援して	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	新規の入居者は、よくお話をされる入居者の隣に座席を準備したり、自分から話すのが苦手な方は、職員が間に入り、孤立しないように支援している。全体のレクリエーションも取り入れ、皆で楽しむようにしている。		

洲本中川原グループホームラガール

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院となり、利用契約が終了となっても、家族や病院に連絡し、状態伺いを行っている。体調が安定となれば、サービスの情報を伝えたり相談対応をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の雑談の中から、入居者の想いを把握し、細かな行動は見逃さないようにしている。家族にも、話を伺い、本人にとっての暮らし良いサービスを検討している。	利用者個々の思いや暮らし方の希望について、入居時は「入居前調査票」「入居申込書」「アセスメントシート」等で把握している。入居後は日々の会話の中で把握に努め、「申し送りチェックシート」で共有している。利用者担当職員を設置し、把握しやすい関係づくりに努めている。把握した思いや意向は、支援や介護計画に反映できるよう取り組んでいる。把握が困難な利用者については、表情・反応等から汲み取ったり、家族からの意見・情報を参考に把握に努めている。	入居後に把握した新しい情報は、その都度「入居前調査票」に追記する等により、情報の蓄積・共有、個別支援に活用してはどうか。
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時家族や本人より、出来ること、興味のあること、生活歴などの情報を伝えていただき把握できるようにしている。入居後は、日々の雑談の中で、思いを探り、プランや行事に反映できるようにしている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の生活の中で、入居者一人一人の状態を把握し、申し送りノートや口頭などで、職員みんなが情報を共有できるようにしている。日々の様子は、日誌に記録し保管、いつでも閲覧できるようにしている。		

洲本中川原グループホームラガール

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(13)	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>利用申込書や状況申込書などで生活歴や趣味、病歴など把握し、課題や本人、家族の要望をプランに盛り込んでいる。入居者に各担当職員を配置、3カ月、また6カ月ごとに普段の状態を把握しケアチェック表を作成し、モニタリングやカンファレンスを行い介護計画を作成している。</p>	<p>入居前サービスからの情報・「入所前調査票」「利用者申込書」「アセスメントシート」「ケアチェック表」等を基に初回の「介護計画書」を作成している。各ユニットにファイルを設置し、グループホーム会議で共有し、職員に「介護計画」の内容の周知を図っている。サービス実施状況を「介護記録」に記録し、介護計画に基づいた記録ができるよう指導している。毎月モニタリングを行い、必要時は随時、定期的には3ヶ月～6ヶ月ごとに「介護計画」の見直しを行っている。見直し時はモニタリングと「ケアチェック表」での再アセスメントを行い、担当者会議を開催し、本人・家族の意向、主治医の意見・助言等(事前の聴き取り含む)を反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>入居者の日々の様子や状態の変化を日誌や申し送りノートに記載、情報を共有している。毎月のモニタリングを行い計画の見直しを行っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人の状態の変化や家族の状況の変化が生じた時は、受診対応や特養への申込み等必要に応じたサービスの提供が出来るようにしている。状態、状況の変化に柔軟に対応できるように取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>毎週木曜日にある「百歳体操」や毎月第3月曜日にある「ひまわり会」に参加し、談笑やお茶会、歌うたうなど楽しまれている。家族からの要望で成年後見制度を利用されている入居者もいる。</p>		

洲本中川原グループホームラガール

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>家族が、受診対応される入居者、往診の方、職員が受診対応する方、個々の要望に合わせた受診支援を行っている。往診時では、入居者の状態を職員が報告、受診結果を職員で共有、家族に連絡している。</p>	<p>協力医療機関から内科・眼科・歯科往診が受けられる体制があり、週2回訪問看護師が訪問し医療連携体制を整備している。往診の利用、家族による受診対応、職員による受診対応等、利用者・家族の意向に沿った受診支援を行っている。外部受診については、家族の受診対応が困難となり、職員の受診対応が増えている。「往診ファイル」で職員が往診医に近況を報告し、「訪問看護申し送り・訪問看護記録」で訪問看護師と情報交換している。往診・外部受診の結果は、「介護記録」「申し送りチェックシート」に記録している。</p>	
31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>週に2度訪問看護師が来ている。日頃の状態を伝え、共有、支援に繋げている。急変時は、主治医や訪問看護師に連絡し迅速に対応できるようにしている。</p>		
32	(15)	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は、病院に日々の状態、食事形態などの情報を届けている。地域連携室に連絡をして情報を交換、退院時はすぐに受け入れが出来るようにしている。入院時の情報は、申し送りノートや支援経過で、共有。退院前カンファレンスや看護サマリーで情報を受け退院後の支援をに取り組んでいる。</p>	<p>入院時は「介護サマリー」で医療機関に情報提供している。入院中は、主に電話で家族や医療連携室と情報交換を行い、早期退院に向け連携している。入院中に把握した情報は、「申し送りチェックシート」で職員に周知・共有している。退院前カンファレンスに参加し、退院時には「看護サマリー」で情報提供を受け、介護度の変更・「介護計画」の見直し等、退院後の支援に取り組んでいる。</p>	

洲本中川原グループホームラガール

自己 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、重度化した場合や終末期に向けた施設での可能な対応方針を説明している。状態に応じ家族の意向を伺い、主治医や訪問看護師と連携を図り、チームとしてターミナルに向け支援に取り組んでいる。	契約時に「重度化した場合における対応に係る指針」「看取りに関する指針」を説明し、家族の意向を確認し、指針についての同意を得ている。重度化を迎えた段階で、家族・主治医・事業所職員で会議を行い、主治医・事業所から状況や対応を説明し、家族の意向を確認し、今後の方針について話し合いを行っている。家族に看取り介護の希望があれば、「看取り同意書」、看取りに向けた「介護計画書」を作成し、主治医・訪問看護師等と連携しチームで支援に取り組んでいる。経過については「介護記録」「申し送りシート」「支援経過記録」に記録し、職員間で情報共有している。年間研修計画に沿って、施設合同の研修会で「ターミナルケア」研修を実施している。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成している。施設内勉強会や消防署に救命講習の依頼をし、心肺蘇生やAEDの使い方の研修を受けている。救急車が到着までの初期対応もマニュアル化している。		
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害発生時のBCPを作成し、研修や訓練をしている。備蓄食品の確認や日用品の確認、購入を行い、災害時に備えている。	BCP(事業継続計画)を作成している。防災委員会が年間計画を作成し、消防訓練を年2回、土砂災害訓練を年2回、BCP(事業継続計画)訓練・研修を実施している。消防訓練は、夜間想定総合訓練で、利用者も参加して行っている。「行事計画書」に計画内容・実施記録を記録し、閲覧により職員に周知を図り、閲覧印で周知を確認している。「緊急時の連絡網」「地震発生時の対応フローチャート」等を各フロアのスタッフルームに掲示し、日頃からの意識付けを図っている。災害に備えた非常用食料・備品等は部署ごとに備蓄し、管理している。運営推進会議で地域との協力関係を築けるよう取り組み、福祉避難所として市と協定を結んでいる。	

洲本中川原グループホームラガール

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護や個人情報・接遇について施設内勉強会を行っている。不適切な声掛けやケアについても勉強会をしている。個々に応じた接し方やプライバシーに配慮し、入浴やトイレは羞恥心に配慮、カーテンやドアで可能な限り見えないようにしている。	年間研修計画に沿って、施設合同の研修会で「接遇」「認知症」「プライバシー保護」「個人情報」研修を実施し、利用者尊重・誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について学ぶ機会を設けている。各フロアのスタッフルームに「16か条」「スピーチロックについて」を掲示し、定期的に職員個々が自己評価を行う等、意識向上に努めている。「ケアセンター便り」やホームページ等での利用者の写真や映像の使用については、契約時に利用者・家族に意向確認し、同意を得ている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の生活の中で、本人の行きたいところや好みの飲み物、レクリエーション等自己決定ができるように支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起本人の希望に添えるようにしている。入居者の視点に立ち、本人のペースに合わせた起床や入浴、楽しみが持てるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの店に買い物に行き、自身で洋服を選んで頂いたり、今日はこの服を着るということで、一緒に着る服を選んだりしている。髭剃りや散髪など定期的に行い清潔の保持に心がけている。家族が好みの服を持ってきてくださることもある。			

洲本中川原グループホームラガール

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナが5類となり、外食も可能となる。家族と外食をしたり、行事で外食を行うなどしている。おやつ作りとして、入居者と共にパン作り等もしている。週に2回移動スーパー「とくし丸」が来て好みの食品を購入している。	施設の厨房で委託業者が加熱調理し配膳した食事を、温冷配膳車で各ユニットに届け提供している。炊飯は各ユニットで行っている。食事形態・治療食にも、厨房が対応している。献立に行事食の配慮があり、月2回厨房で手作り調理した食事の提供もある。栄養サポート委員会を毎月開催して委託業者と意見・情報交換し、また、年に1回利用者アンケートを実施し、利用者の希望や嗜好を献立に反映できるよう取り組んでいる。事業所が毎月手作りパンの日・手作りおやつの日を設け、利用者も参加できるよう支援している。週2回の移動スーパーで、好みの食品を購入する機会もある。外出行事や家族との外出で、喫茶や外食も再開している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	給食は委託業者が入っている。施設の管理栄養士と連携し、水分量や食事摂取量、食事形態を共有、栄養状態など主治医に相談し、助言や指示を頂き、刻み食やミキサー食、栄養補助食品への変更も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事時、噛みにくい、痛みがあるなどの訴え時、また義歯がずれたりがある時は、家族に連絡し、歯科受診対応を行っている。口腔ケアは、自身で行える方は、見守りにて、困難な方は、職員が対応、夜間ポリデントを使用し清潔の保持を行っている。		

洲本中川原グループホームラガール

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で、排泄状況やパターンの把握に努めている。排泄希望時や落ち着きなくされるときは言葉かけにてトイレ誘導を行っている。出来る限りトイレでの排泄は可能となるよう排泄用品の工夫を行う。	自立からベッド上での介助まで、排泄の自立度に個人差が大きい状況である。「排泄チェック表」で排泄状況・排泄パターンを把握し、適時の声掛け・誘導や排泄用品の交換により、排泄の失敗や排泄用品の使用の軽減に努めている。介助方法や排泄用品についての検討事項は、計画作成担当者と利用者担当職員が職員の意見を集約して検討し、「申し送りチェックシート」で経過も共有しながら現状に即した支援につなげている。各居室にトイレが設置され、プライバシーが守られる環境であり、ドア・カーテンの開閉、声掛け等にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて排泄の有無を確認。個々に応じて水分摂取を勧めたり、お腹のマッサージを行い、自然排便を促している。状態に応じて主治医に相談をし、緩下剤や下剤にて排便のコントロールを行っている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の体調や入浴の希望に添えるよう入浴日や時間帯の調整を行い実施している。身体状況により、ボードを使用したり、2人っ介助を行い安全な入浴としている。行事の中にゆず湯やしょうぶ湯を取り入れ季節感を味わって頂いている。	一般浴槽の個浴で、2人介助・ボードの使用等も行い、可能な限り浴槽での入浴を支援している。身体状況や体力に応じて、シャワー浴でも対応している。入浴予定表に沿って、週2～3回の入浴を基本とし、体調や意向に応じて入浴日や時間帯を柔軟に調整している。実施状況は、入浴チェック表で確認している。年間行事に取り入れて菖蒲湯・ゆず湯を行い、季節感が楽しめるよう工夫している。	

洲本中川原グループホームラガール

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝遅くまで休みたい方、お昼は居室で過ごしたい方等その方その方の想いに添い過ごして頂いている。適切な温度調整や遮光調整を行い、夜間の巡回時は、就寝を妨げることの無いように静かに入退室をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者それぞれに処方箋ファイルを作成、どういう薬を服用しているか、その薬による転倒などの予防や副作用についてなど、職員の周知を図っている。薬管理の徹底を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に得た生活歴やサービスを行う中で知りえた情報などで、行事の参加やレクリエーションの参加の言葉かけを行っている。毎月季節の行事があり、初詣に始まり、夏祭りや文化祭等楽しむ機会を設けている。入居者の状態に応じ手、洗濯物を畳んだり、食器を拭くなどして頂いている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族と受診帰りに外食や、いいお天気だから、ドライブ、買い物好きな方は外出行事で買い物に、歌が好きの方は、「ひまわり会」に参加して地域の方と一緒に歌う、移動スーパーで好きな食べ物を購入等それぞれの希望に沿って対応している。季節の行事やレクリエーションも楽しんで頂いている。	毎月外出行事を企画し、花見・鯉のぼり見学ドライブ・新緑ドライブ・海岸ドライブ・買い物・外食等を楽しむ機会を設けている。定期的に地域の「百歳体操・お茶会」(週1回)や「ひまわり会」(月1回)にも外出し参加している。家族との外出・外泊も再開している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所でお金の管理を行っている。外出時の買い物や毎週月曜日・木曜日に移動スーパーが来られ、嗜好品の買い物をされお金の使う機会がある。		

洲本中川原グループホームラガール

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの連絡があり、よく会話をされている。入居者からも希望時は、電話が出来るようにしている。対面面会の再開があり、家族や知人との繋がりが継続できている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	デイルームは、日当たりがよく、窓からは、野菜やお米の作られている畑が見え、季節がよく分かる。日当たりが強い時は、カーテンを利用し光を遮断、空調管理をし、過ごしよい環境に努めている。壁には、入居者と職員で一緒に作成した作品を掲示、季節感を出している。廊下などは、入居者の導線の妨げとならないようにしている。野球や相撲など、好みのテレビも見ていただいている。	各フロアの共用空間は、窓からの採光で明るく、眺望もよい。テーブル席とソファを配置し、思い思いにくつろげる環境である。利用者と一緒に制作した季節の作品を飾り、季節感が感じられる。キッチンスペースがあり、利用者も食器拭きや洗濯物たたみに参加し生活感を取り入れている。食事前のラジオ体操・口腔体操、個別レクリエーション、グループレクリエーションを日課とし、季節に応じた行事・イベントを毎月行い、共用空間で楽しみながら機能の維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席に配置に配慮し、仲の良い方は、隣に、1人でゆっくり過ごしたい方時は、自室やソファで過ごして頂いている。自己のペースにあつつ過ごし方をして頂いている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具やテレビ、写真など持参いただき、落ち着いて過ごして頂けるようにしている。洗面所と居室の間は、カーテンがあり、プライバシーの保護をしている。	各居室に、トイレ・洗面台・クローゼット・ベッド・たんす・寝具・カーテン等が設置されている。トイレ・洗面所と生活空間がカーテンで仕切られ、消臭設備で匂いへの配慮がある。木調の落ち着いた雰囲気、テレビ・椅子・位牌・写真・ブリザーブドフラワー等馴染みの物の持ち込みがあり、居心地よく過ごせる環境である。各居室前には表札と共に作品を飾り、部屋間違いがないよう工夫している。	

洲本中川原グループホームラガー

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室前、飾りつけを行い、表札と共に自身の部屋だと分かるようにしている。浴室やトイレは、張り紙をして自立支援の工夫を行う。		